

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築史	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2022年度:1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	安田 泰三（建築設計事務所で、主に商業・事務所・集合住宅等の大規模建築の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	先人たちが行ってきた建築的な試行錯誤の跡の確認、現在あるいは未来という時代に必要とされている建築行為を見定めるために不可欠である。この科目では建築史の基礎を学ぶとともに建築史への興味を抱かせる。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とし、教科書その他スライドや配布プリントを使用。テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 近代建築史	産業革命～新素材と新技術、アーツアンドクラフツ運動、グラスゴー派、アール・デコ
第2回		アール・ヌーヴォー、モデルニスモ、ウィーン分離派/ゼツェッシオン、ウィーン工房
第3回		シカゴ派、アメリカ地域主義 フランク・ロイド・ライト
第4回		デ・ステイル、未来派、ロシア構成主義、ロツテルダム派、アムステルダム派
第5回		ドイツ工作連盟、バウハウス、ドイツ表現主義
第6回		ミース・ファン・デル・ローエとル・コルビジェ
第7回		インターナショナルスタイルとナショナルリズム
第8回		近代日本の建築家と作品1
第9回		近代日本の建築家と作品2
第10回	2. 古代建築史	ギリシア建築
第11回		ローマ建築、中世建築・初期キリスト教建築
第12回		ロマネスク、ゴシック
第13回		ルネッサンス、マニエリスム
第14回		バロック、新古典主義
第15回	3. 日本建築史	日本建築史1 古代住居、神社、仏教寺院
第16回		日本建築史2 寝殿造、和様・宋様、寝殿造～書院造
第17回		日本建築史3 城郭と書院、茶室、数寄屋、江戸期の都市建築

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅰ	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2022年度:1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	安田 泰三（建築設計事務所で、主に商業・事務所・集合住宅等の大規模建築の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	最も身近な生活の器である住宅について、その計画方法を理解し、快適な住空間を創造する計画技術を学ぶ。また近年の高齢者社会における、住環境整備の需要の高まりを考慮し、ユニバーサルデザインを目指した住戸計画についても、理解を深める。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とし、教科書を使用、必要に応じ配布プリント・コンピューター映像を盛り込み理解を深める。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 寸法のシステム	①寸法の単位とヒューマンスケール
第2回		②寸法のシステム:モジュール、日本の木割り
第3回	2. インテリア空間	①インテリア空間と人間工学
第4回		人体とスケール～人体寸法から動作空間～単位空間
第5回		
第6回		
第7回	3. 住宅計画とは何か	①住宅計画の歩み
第8回		②歴史の中の住宅建築
第9回	4. 住空間の構成原理	①居室の結合タイプ
第10回		②住宅平面の考え方
第11回		機能と動線によるプランニング
第12回		
第13回	5. バリアフリー計画	①バリアフリー・ユニバーサルデザイン
第14回		②多目的トイレ等のハンディキャップ者用の衛生設備
第15回		③車いす利用者、杖使用者の寸法
第16回		④出入口～廊下(スロープ)～エレベーター
第17回		
第18回	6. 環境計画	■7月下旬、前期期末試験実施
第19回		①世界的な地球温暖化対策と環境施策、日本国における対策
第20回		②日本における対策・具体的な制度
第21回		③建設リサイクル、ストックと空き家問題
第22回	7. 室内環境・シックハウス	①化学物質の種類、法規制、機械換気設備
第23回		②アスベスト
第24回		
第25回	8. 駐車場計画	駐車パターン、機械式駐車場、スロープ、駐輪場等の寸法計画
第26回		
第27回	9. 集合住宅の住戸形式	
第28回		
第29回	10. コミュニティ施設と 社会福祉施設	
第30回		
第31回	11. 都市計画	住区と用語
第32回		
第33回	12. 各部計画	
第34回		■12月中旬、後期期末試験実施

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅱ	開講学科	建築インテリアデザイン学科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2022年度:2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔(建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	各施設計画における用語や基本的な考え方を理解する。そのうえで、実際の建築事例の平面図を用いて、計画学的読解力を高める。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で基本概要の解説を行い、演習を適宜実施する。2級建築士資格試験にも対応できるような内容・水準をベースとする。また、平面図を中心に多くの建築事例の図面を用いて、それらの計画学的な意図・手法について読み解いていく。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	集合住宅	連続住宅
第3回		アクセス形式・住戸断面形式の分類
第4回		グループ居住(コーポラティブハウス、コレクティブハウス)
第5回	幼稚園・学校	保育室の計画
第6回		学校運営方式
第7回		平面計画
第8回	オフィス	レントابل比
第9回		コアタイプ
第10回		デスクレイアウト
第11回	図書館	図書館の役割
第12回		出納方式
第13回		平面計画
第14回	美術館・博物館	部門構成
第15回		平面計画
第16回		展示室の採光・照明

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造Ⅰ	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2022年度:1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築構造全般、木構造、鉄筋コンクリート構造を中心に、建築物の骨組みや仕上げの構成を理解して、基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドや動画などの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	建築工法の概要	構法の変遷、構造の分類
第3回	木質構法の特徴1	木質構法の種類、設計図書
第4回	木質構法の特徴2	木材(建築用木材 組織と性質、規格、変形)
第5回	木質構法の特徴3	木材(木質材料)
第6回	軸組工法1	軸組み工法の構成、部材名称、力の流れ
第7回	軸組工法2	基礎、地盤調査、地業
第8回	軸組工法3	軸組 ～土台、柱、桁・梁・胴差、継手・仕口
第9回	軸組工法4	小屋組 ～和小屋、洋小屋
第10回	軸組工法5	小屋組 ～屋根伏作成(切妻・寄棟)1
第11回	軸組工法6	小屋組 ～屋根伏作成(切妻・寄棟)2
第12回	軸組工法7	壁、筋交い ～概説
第13回	軸組工法8	壁、筋交い ～壁量計算1
第14回	軸組工法9	壁、筋交い ～壁量計算2
第15回	軸組工法10	床組の構成
第16回	軸組工法11	内外装 ～床、内壁、天井、外壁
第17回	軸組工法12	開口部、建具
第18回	その他木造工法	枠組壁工法、大断面集成材工法
第19回	鉄筋コンクリート構造1	構造形式と構造の原理、設計図書
第20回	鉄筋コンクリート構造2	コンクリート(セメント、骨材、混和材)1
第21回	鉄筋コンクリート構造3	コンクリート(セメント、骨材、混和材)2
第22回	鉄筋コンクリート構造4	コンクリート(調合、発注)1
第23回	鉄筋コンクリート構造5	コンクリート(調合、発注)2
第24回	鉄筋コンクリート構造6	鉄筋(種類と強度)1
第25回	鉄筋コンクリート構造7	鉄筋(種類と強度)2
第26回	鉄筋コンクリート構造8	鉄筋(加工と継手、かぶり厚さ、定着)1
第27回	鉄筋コンクリート構造9	鉄筋(加工と継手、かぶり厚さ、定着)2
第28回	ラーメン構造1	ラーメン構造の構成、部材名称、力の流れ1
第29回	ラーメン構造2	ラーメン構造の構成、部材名称、力の流れ2
第30回	ラーメン構造3	基礎、柱、梁、スラブ、壁1
第31回	ラーメン構造4	基礎、柱、梁、スラブ、壁2
第32回	ラーメン構造5	柱・梁の鉄筋量の算定1
第33回	ラーメン構造6	柱・梁の鉄筋量の算定2
第34回	その他RC構造	壁式構造、プレキャスト構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造Ⅱ	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2022年度・2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	ものとしての建築が、どのような材料や部分・部品から構成されているのかについて、鉄骨構造を中心に学ぶ。木造・鉄筋コンクリート構造との違いも踏まえ、その特徴や留意点をひも解く。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドや動画などの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	鉄骨構造の特徴	構造形式と特徴、設計図書
第3回	材料1	鋼材1(鋼材の形状、柱・梁の種類)
第4回	材料2	鋼材2(鋼材の種類)
第5回	鉄骨構造1	接合方法1(接合方法の種類)
第6回	鉄骨構造2	接合方法2(高力ボルト接合)
第7回	鉄骨構造3	接合方法3(溶接接合／方法、種類、形状)
第8回	鉄骨構造4	接合方法4(溶接接合／工場、現場)
第9回	鉄骨構造5	架構の構成
第10回	鉄骨構造6	基礎・柱脚
第11回	鉄骨構造7	柱・梁(継手・仕口、ブレース)1
第12回	鉄骨構造8	柱・梁(継手・仕口、ブレース)2
第13回	鉄骨構造9	床(デッキプレート、パネル、階段)
第14回	鉄骨構造10	詳細1(耐火被覆、開口部)
第15回	鉄骨構造11	詳細2(外装材)
第16回	鉄骨鉄筋コンクリート構造	鉄骨鉄筋コンクリート構造
第17回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築法規Ⅰ	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2022年度:1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔(建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築・インテリアを構成する一つの要素でもある法規は、現実社会との接点である。建築法規を、身近な存在として親しみをもち、理解を深めることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で基本概要及び例題の解説を行い、そのうえで演習を実施する。将来の建築士試験に向けた下地づくりができるよう、テキストのほかに法令集を使用し、演習においては実際の建築士試験問題を取り入れる。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	法令集のつくり方(インデックスの貼り方、アンダーラインの引き方)
第2回		
第3回	用語の定義	建築物、特殊建築物、居室、主要構造部、構造耐力上主要な部分、
第4回		建築・大規模な修繕・模様替、延焼のおそれのある部分、耐火・準耐火建築物
第5回	面積・高さの算定	敷地面積、建築面積、床面積、延べ面積、高さ、階数
第6回		
第7回	敷地と道路	道路の定義、接道義務、道路内の建築制限、壁面線の指定
第8回		
第9回	用途地域	用途地域の建築制限
第10回		
第11回	建蔽率	建蔽率の定義と算定方法
第12回		
第13回	容積率	容積率の定義と算定方法
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回	採光	採光有効面積
第21回		
第22回		
第23回	換気・シックハウス	換気、換気設備、シックハウス対策
第24回		
第25回		
第26回	天井高・階段	天井の高さ、床の高さ、階段、便所
第27回		
第28回		
第29回	耐火・防火	耐火建築物等としなければならない特殊建築物
第30回		
第31回		
第32回	防火・準防火地域	防火地域・準防火地域
第33回		
第34回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築法規Ⅱ	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2022年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之(建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築・インテリアを構成する一つの要素でもある法規は、現実社会との接点である。集団での生活に、ルールがあるように、建築・インテリアにもルールがある。建築法規を身近な存在として親しみをもち理解を深めるとともに、建築士試験レベルの問題に取り組みその対策とすることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	高さ制限	ガイダンス 教材の説明と授業の進め方
	絶対高さ	用途地域等により、建築物の高さが制限される事を解説
第2回	道路斜線	前面道路の幅員により、建築物の高さが制限される事を解説
第3回		セットバックによる特例
第4回		2以上の道路による特例
第5回		道路の反対側の状況による特例
第6回		道路と敷地に高低差がある場合の特例
第7回	高さ制限まとめ	演習問題による実習を通して、高さ制限について理解
第8回	構造強度	
第9回	木造	柱の小径 梁 筋かい
第10回	補強コンクリート	軸組計算
	ブロック造	地震で倒壊しない塀の構造等を解説
第11回	鉄骨造	鉄骨造の材料・有効細長比・接合・高力ボルト等を解説
第12回	鉄筋コンクリート造	柱・床版・はり・耐力壁の構造等を解説
第13回	構造強度まとめ	演習問題による実習を通して、構造強度について理解
第14回	確認申請等	建築物の建築において、建築確認申請が必要か不要かの判定方法を解説
第15回		用途変更及び工作物について、建築確認申請が必要か不要かの判定方法を解説
第16回		中間検査・完了検査の必要な時期、及びその申請方法について解説
第17回		定期報告・工事届、除却届等：各種届出の時期及び届出方法について解説
第18回	確認申請等まとめ	演習問題による実習を通して、確認申請等について理解
第19回	避難施設等	廊下の幅員について解説
第20回		客席からの出口の戸、及び屋外への出口の戸について解説
第21回		2以上の直通階段が必要な建築物の条件、及び避難階段の種類等について解説
第22回		排煙設備について、その設置条件及び構造等について解説
第23回		非常用照明・非常用進入口・非常用EVについて、その設置条件及び構造等について解説
第24回	避難施設等まとめ	演習問題による実習を通して、建築士法・関連法規について理解
第25回	内装制限	内装制限を受ける建築物の条件について解説(令128条の4 表の読み方)
第26回		内装制限を受ける建築物の条件について解説(大規模建築物等)
第27回		内装制限を受ける建築物の条件について解説(火気使用室)
第28回		内装制限を受けた建築物の内装仕上材料等について解説(室内)
第29回		内装制限を受けた建築物の内装仕上材料等について解説(通路)
第30回	内装制限まとめ	演習問題による実習を通して、内装制限について理解
第31～34回	建築士法等関連法規	1級・2級・木造建築士が設計・工事監理できる建築物の条件について解説

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	構造力学	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2022年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	初歩的な構造物を対象に力のつり合いについて学び、建物の骨組みのどこにどのような力が作用しているかの解法を身につける。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とし、演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	構造力学概論	構造力学の流れ、モデル化、接合条件と支持条件、構造物の分類
第3回	力とモーメント	力、モーメント、偶力
第4回	力の合成と分解1	合成と分解・計算方法
第5回	力の合成と分解2	分布荷重の合成
第6回	力のつり合い1	つりあい力算定1(平行な力)
第7回	力のつり合い2	つりあい力算定2(平行でない力)
第8回	静定構造物の反力1	反力算定(単純梁1)
第9回	静定構造物の反力2	反力算定(単純梁2)
第10回	静定構造物の反力3	反力算定(片持ち梁1)
第11回	静定構造物の反力4	反力算定(片持ち梁2)
第12回	静定構造物の反力5	反力算定(はね出し梁1)
第13回	静定構造物の反力6	反力算定(はね出し梁2)
第14回	静定構造物の反力7	反力算定(ラーメン1)
第15回	静定構造物の反力8	反力算定(ラーメン2)
第16回	静定構造物の反力9	反力算定(トラス)
第17回	静定構造物の反力10	反力算定(3ヒンジラーメン1)
第18回	静定構造物の反力11	反力算定(3ヒンジラーメン2)
第19回	静定構造物の応力1	応力概説、算定手順
第20回	静定構造物の応力2	応力算定(片持ち梁1)
第21回	静定構造物の応力3	応力算定(片持ち梁2)
第22回	静定構造物の応力4	応力算定(片持ち梁3)
第23回	静定構造物の応力5	応力算定(単純梁1)
第24回	静定構造物の応力6	応力算定(単純梁2)
第25回	静定構造物の応力7	応力算定(単純梁3)
第26回	静定構造物の応力8	応力算定(ラーメン1)
第27回	静定構造物の応力9	応力算定(ラーメン2)
第28回	静定構造物の応力10	応力算定(ラーメン3)
第29回	静定構造物の応力11	トラス概説、算定手順
第30回	静定構造物の応力12	応力算定(片持ち梁式トラス1)
第31回	静定構造物の応力13	応力算定(片持ち梁式トラス2)
第32回	静定構造物の応力14	応力算定(単純梁式トラス1)
第33回	静定構造物の応力15	応力算定(単純梁式トラス2)
第34回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築施工	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2022年度・2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之(建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	将来インテリア・建築に関連する業務において、知っておくべき最低限の現場実践的な知識の理解を目指す。建築施工の流れや、契約から鉄筋コンクリートの躯体ができるまでを中心に、施工方法等の基礎的な知識を習得する。又、2級建築士試験対策としての知識の修得も目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	契約・計画・管理 契約・仕様書 施工計画	ガイダンス 教材の説明と授業の進め方 工事計画 施工計画 工程計画
第2回	施工管理 工事準備	現場 安全 材料 品質管理 申請・届出・手続き 各調査
第3回	各部工事 仮設工事	仮設工事の要点 種類 仮囲い 足場 棧橋 架設通路 安全施設
第4回	土工事 地業工事 基礎工事	地盤調査 土工事 地業工事 杭工事
第5回	鉄筋工事	鉄筋の種類 鉄筋の加工・組立 定着 継手
第6回	型枠工事	型枠の材料 加工・組立 解体 特殊工法
第7回	コンクリート工事	コンクリートの材料 用語 調合 製造 運搬・打込・養生 品質管理・試験方法等
第8回	鉄骨工事	材料 工場作業 接合 現場作業 耐火被覆
第9回	組積工事	補強コンクリートブロック工事 ALC工事 れんが工事
第10回	木工事	材料 加工 造作工事 枠組壁工法
第11回	防水工事	防水の種類 メンブレン防水工事 シーリング工事
第12回	左官工事	各種下地 塗り工事 吹付け工事
第13回	タイル工事 石工事	
第14回	塗装工事 建具工事 ガラス工事	種類と特性 素地ごしらえ 工法
第15回	内装工事 断熱工事 設備工事	給排水衛生 建築と設備の関連
第16回	各種工事 施工用語 施工機械器具	屋根工事 金属工事 揚重・運搬用機械 土工事用機械 各種工事用機械 工法と工事等の関係
第17回	その他 積算 測量	工事費の構成 積算用語 積算の基本事項 各種工事の歩掛り・割増率 縄張り・やりかた 各種測量

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	環境工学	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2022年度・2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	快適な空間を理解し、自らそれを作り出すために、建築が人間に与える環境(熱・空気・光・音など)について工学的な基礎知識を学ぶ。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	波の性質1	波の性質、波としての音、波としての光
第3回	熱の性質2	熱とは、熱の伝わり方
第4回	太陽と地球1	太陽位置、地球の公転・自転、日照と日影
第5回	太陽と地球2	太陽からの放射と地球放射
第6回	太陽と地球3	地球の大気と気象
第7回	光1	光の知覚と物理量
第8回	光2	明るさと快適性①快適な視環境、視環境に影響する諸現象
第9回	光3	明るさと快適性②光源の種類と特徴、電灯照明、昼光照明
第10回	光4	色彩設計 ～色の名前、色彩心理
第11回	熱1	人体の熱収支、温熱快適要素、温熱快適指標
第12回	熱2	室内環境における熱収支、断熱、蓄熱
第13回	熱3	湿気、結露、対策
第14回	熱4	室内空気汚染、換気(目的、必要換気量、原理、種類)
第15回	音1	音の強さ(物理量、知覚、伝搬)
第16回	音2	音の計画(音の評価、環境振動・固体音、響き・知覚)
第17回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築設備	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2022年度・2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	大和 賢次(建築設備設計事務所にて公共建物(特に埼玉県)・医療・店舗複合建物・集合住宅等の設備設計及び現場監理、特定建築物建築設備の定期検査報告に従事している経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築計画に必要な環境及び建築基準法・消防法・ビル管理法・建築確認申請等の解説。 自分で設計した建物に給排水・換気・照明器具等設備設計図の作成を行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 建築設備	建築設備に関する概要
第2回～ 第4回	2. 給水設備	給水方式、給水使用量、用語の解説、給排水設備機器、使用量等の調査
第5回～ 第6回	3. 換気設備	換気方式、建築基準法に適合する計算式等の基本を学ぶ
第7回～ 第9回	4. 空調設備	冷暖房方式、冷暖房負荷、結露の原因等の概要 冷暖房設備の負荷計算書の作成
第10回～ 第12回	5. 電気設備	電気幹線・照明・テレビ・インターホン・電話等に関する概要 照明の照度計算
第13回	6. 熱源機器	化石エネルギー・自然エネルギー等の概要
第14回	7. 防災設備	消火設備・火災報知設備・消防法等に関する基本
第15回～ 第16回	8. 建築設備図面	簡単な建築設備図の作成 (各自のパソコンで作成)
第17回	9. 資格試験問題	練習問題・解説

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅰ（木造）	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位（136時間）	開講・履修期	2022年度：1年（通年）	講義区分	専門実技
教員紹介	岡野 勇（建築設計事務所、教会設計、土気ヒルズと沢山の街並み計画、実施設計、その他数々の住宅を手掛け新築からリフォームまでインテリア、エクステリア、ライティングまでトータルにデザイン設計を行う経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「建築製図Ⅰ」では、各種構造の基本や特徴を、実務的な図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、更に手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解することを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。また、スライドや資料などの教材を利用した講義形式の授業も行う。作業は基本的には個人で行うが、軸組模型についてはグループワークによるものである。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目橋・教科書・スケジュール・評価方法などの説明
第2回	2. 木造製図	図面の名称・内容・図面の読み方・図面を描く上での注意点
第3回		案内図・求積図・一般事項・基本寸法・面積算出の説明
第4回		配置図講義
第5回～		配置図作図演習①
第8回		配置図作図演習②
第9回		平面図講義
第10回～		1階平面図作図演習①
第15回		1階平面図作図演習②
第16回～		2階平面図作図演習①
第20回		2階平面図作図演習②
第21回		平面詳細図講義
第22回～		1階平面図作図演習①
第26回		1階平面図作図演習②
第27回～		2階平面図作図演習①
第32回		2階平面図作図演習②
第33回		軸組模型講義
第34回～		軸組模型製作演習①
第44回		軸組模型製作演習②
第45回		立面図講義
第46回～		立面図作図演習①
第50回		立面図作図演習②
第51回		断面図講義
第52回～		断面図作図演習①
第56回		断面図作図演習②
第57回		矩計図講義
第58回～		矩計図作図演習①
第63回		矩計図作図演習②
第64回		基礎伏図講義
第65回～		基礎伏図作図演習①
第68回		基礎伏図作図演習②
第69回		1階床伏図講義
第70回～		1階床伏図作図演習①
第74回		1階床伏図作図演習②
第75回		2階床伏図講義
第76回～		2階床伏図作図演習①
第79回		2階床伏図作図演習②
第80回		2階小屋伏図講義
第81回～		2階小屋伏図作図演習①
第84回		2階小屋伏図作図演習②
第85回		展開図講義
第86回～		展開図作図演習①
第92回		展開図作図演習②

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅱ（RC造）	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位（136時間）	開講・履修期	2022年度・2年（通年）	講義区分	専門実技
教員紹介	篠原 範之（建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	鉄筋コンクリート構造の基本や特徴を、実際の図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、さらに手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解する。後期には2級建築士試験の設計製図対策を行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	鉄筋コンクリート造	図面の名称・内容、図面の読み方、図面を描く上での注意点
第3回	設計製図課題	配置図・1階平面図講義
第4回～		配置図兼1階平面図作図演習①
第15回		配置図兼1階平面図作図演習②
第16回		基準階・屋上階平面図講義
第17回～		基準階平面図作図演習①
第25回		基準階平面図作図演習②
第26回～		屋上階平面図作図演習①
第30回		屋上階平面図作図演習②
第31回		断面図講義
第32回～		断面図作図演習①
第40回		断面図作図演習②
第41回		立面図講義
第42回～		立面図作図演習①
第50回		立面図作図演習②
第51回	2級建築士試験	課題の読取り及びエスキスの手順講義
第52回～	設計製図対策	課題の読取り演習
第60回		エスキス演習
第61回		部分詳細図講義
第62回～		部分詳細図作図演習①
第68回		部分詳細図作図演習②

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	設計演習Ⅰ（住宅）	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	7単位（212時間）	開講・履修期	2022年度：1年（通年）	講義区分	専門実技
教員紹介	安田 泰三（建築設計事務所で、主に商業・事務所・集合住宅等の大規模建築の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	戸建住宅を題材に、建築計画学に基づいた住宅の設計手法の実践とプレゼンテーション図作成の技術を学ぶ。また、自分の考え・提案を他の人の前で発表するプレゼンテーションを積極的に授業に取り入れ、自身の考え・提案の進展を図る。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、学外イベント・展示会見学、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第5回	1. 住宅模写	①図面の概念の学習：配置図兼平面図の模写 ②図面の表現の仕方の学習：線の使い分けを学ぶ ■模写図面提出
第6回～ 第26回	2. 「増築案」の作成	①エスキースの学習：フリーハンドによる作業の練習 ：建築計画Ⅰで学ぶゾーニング、動線プランニング等の応用 ②配置図兼平面図の作成：製図用具を使用した手書きの図面の作成 ③模型制作による空間の学習：スチレンペーパーによる模型制作により空間を把握する ■作成図面及び模型提出
第27回～ 第77回	3. 木造戸建住宅 渓谷に隣接する 校外型住宅	①類似例の収集と分析。方針の模索 ②エスキースから図面作成、模型制作、プレゼンテーションまでの一連の過程を学習する ③エスキース及びエスキース模型による図面チェック （夏休み期間の初期（7月下旬～8月上旬の昼間）に行う場合有） ④SketchUpによるプレゼンテーション用図面作成 ■CAD出力図・内外パース・データ及び模型提出 プレゼンテーション
第78回～ 第106回	4. 店舗併用住宅 都市型住宅 +店舗	現地調査－計画地と周辺地域（レポート） ①類似例の収集と分析。方針の模索 ②テーマの決定（設計条件の決定） ③エスキース作業とエスキース模型による検討 ④構造形式の検討・チェック ⑤コンピュータCAD（ベクターワークス・SketchUp）によるプレゼンテーション用図面作成 基本図＋内外パース ⑥完成模型の制作 ■中間発表 ■CAD出力図シート・データ及び模型提出 プレゼンテーション

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	設計演習Ⅱ（商業施設）	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	3単位（102時間）	開講・履修期	2022年度：2年（前期）	講義区分	専門実技
教員紹介	栗山雅之（実務経験を持つ一級建築士であり、インテリアデザイン事務所、商業系設計施工会社企画設計部で、主にホテル・商業施設・店舗等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「設計演習Ⅱ」では、リサーチからプレゼンテーションまでの実務に即したプロジェクトフローに基づき商業施設の建築計画を理解することを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、作品は全てグループワークによるものであり、コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 設計演習Ⅱスケジュール・課題内容説明	①スケジュール及び課題内容説明。
第2回～第3回	2. 調査・分析	①「リサーチ」に関する説明。 ②「リサーチ」について発表する。
第4回～第10回	3. 計画敷地の条件分析・方向性の検討	①コンセプト・キーワードを設定する。 施設ボリューム・動線・ゾーニングの検討をする。 施設構成（配置・平面・断面・各機能）の検討をする。 ②企画書を作成し、発表する。
第11回～第18回	4. エスキース	①配置計画（方位・隣地・接道・外構・建築ボリュームの検討） 平面計画（ゾーニング・動線・採光・通風・プライバシー・床面積の検討） 立面計画（外装・ファサードデザイン・サインデザイン等の検討） 断面計画（階高・階段・EV・吹き抜け・ファサードデザイン・斜線制限等の検討） インテリア計画（内装・ファニチュアプランの検討） 上記のエスキースを行う。
第19回～第32回	5. 図面・模型作成	①設計主旨・建築概要 配置図・各階平面図 立面図・断面図・展開図 内観パース・外観パース 上記の図面を作成する。 プレゼンテーション模型作成する。
第33回	6. 最終提出	①最終成果物（図面・模型一式）提出。
第34回	7. クラス発表会	①クラス発表。

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	インテリアコーディネート	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	3単位(102時間)	開講・履修期	2022年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石橋 弘次（建築設計事務所にて、戸建て住宅の設計監理業務、マンションリノベーションの設計、インテリアコーディネーション業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	一年を通し、インテリアコーディネーションに関わる実務的な知識と手法を習得する事を目的とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、インテリアコーディネーターの仕事内容、イメージやスタイルなどの専門用語の意味を理解する事に始まり、ワンルームコーディネーションを通し、基本となる仕上げ素材や家具の知識を得る。次に、空間を把握した立体的なコーディネーションのための色バランス、高さ活用を学ぶ。後期では、金具や配線図などの詳細なコーディネーションを含むマンションリノベーション課題を通し、パースやプレゼンテーション手法を取得する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものである。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第3回～ 第5回～ 第7回～ 第9回～ 第11回～ 第13回～ 第15回～ 第17回～ 第19回～ 第21回～ 第23回～ 第25回～ 第27回～ 第29回～ 第31回～ 第33回～	第1課題 マンションワンルームIC	[インテリアコーディネーションとは]：インテリアとは、コーディネーターの仕事 [スタイルとイメージ]：言葉とイメージ、インテリアの構成要素 [住空間①「私室」]：くつろぐ、楽しむ、寝る、作業する 第1課題概要説明 [家具①]：家具の種類、名作椅子 [素材①床]：タイル、フローリング、カーペット、畳、ビニル床、石、ラグ 校外授業「リビングデザインセンターオゾン」(予定) [寸法]：寸法感覚をつかむ、基本寸法 [家具②]机、食卓、デスク、シェルフ 課題作成時間 第1課題提出 第2課題概要説明、クライアントインタビュー実施 [住空間②「リビング・ダイニング・キッチン」]：くつろぐ、楽しむ、話す、作る、食べる [材料②壁・天井]：漆喰、珪藻土、塗装、木、クロス(織布、紙、和紙、ビニル)金属等 [ウィンドウトリートメント]：窓のタイプ、ウィンドウトリートメントの種類 [色]色の構成、バランス [光①]：照明器具の種類、太陽光の活用 コーディネーションにおけるプレゼンシート表現方法1 課題作成 第2課題提出・プレゼンテーション
第35回 第36回 第37回 第38回 第39回 第40回 第41回 第42回 第43回 第44回 第45回 第46回 第47回 ～51回	第3課題 マンションフルリノベーション	第3課題概要説明、クライアントインタビュー実施 [住空間③「サニタリー空間」]：洗う、捨てる、脱ぐ、きれいにする [給排水設備]：水栓金具、洗面器等 [材料③透明材]：ガラス、アクリル、ポリカーボネード、ガラスブロック [高さ]：高階高住宅、プロポーション、空間の空き、段差の活用 [建具]：扉の種類、金具、材質 校外授業【JAPAN TEX2021】(予定) [光②]：照明プランニング、配線図 配線図実習 コーディネーションにおけるプレゼンシート表現方法2 課題作成 課題作成 第3課題提出・プレゼンテーション

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	デジタルプレゼンテーション	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2022年度:1年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也(インテリアデザイン事務所、不動産会社にて、商業施設の開発、店舗の設計管理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	「illustrator」「photoshop」を主としたデジタルツールの操作習得を通し、自身が計画した提案を、他者への的確に伝えるプレゼンテーション能力を身に着けることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、実務において汎用性の高い「illustrator」「photoshop」の操作習得し、効果的な提案資料作成の基盤を作る。また、設計課題とも連動し、より実践的な提案資料の作成、プレゼンテーションについても学ぶ。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものである。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1・2回	1. パソコンを使用する準備	・アプリケーション(illustrator、photoshop)のインストール
第3・4回 第5・6回	2. プレゼンテーションの基礎	・提案与件の整理について ・ビジュアルプレゼンテーションについて
第7・8回 第9・10回 第11・12回	3. Photoshopの基礎	・ラスターデータとベクターデータ ・ピクセル・解像度について ・レイヤー・マスクについて ・画像の切り抜き
第13・14回 第15・16回	4. Photoshopの応用(1)	・背景、添景の合成 ・人の合成 ・写真補正(レベル補正 アンシャープ機能 陰影付けと修正)
第17・18回	5. Photoshopの応用(2)	・CG用テクスチャーの作成 ・手描き風写真加工
第19・20回 第21・22回 第23・24回	6. illustratorの基礎	・[線]：ペンツール、ベジェ曲線、アンカーポイント、パス、ブラシ ・[面]：面作成、レイヤー前後関係、加工、パスファインダー ・[カラー]：カラー設定、スウォッチ登録、グラデーション ・トレースチャレンジ・ライブペイント ・[文字]：文字設定、段落設定、文字のレイアウト、フリーフォントの活用 ・[画像配置]：解像度おさらい、画像のリンク、埋め込み、ライブトレース、ラスターライズ
第25・26回 第27・28回	7. illustratorの応用(1)	・レイアウトのルール、手順・フォントの選定 ・学生名刺の作成
第29・30回	8. illustratorの応用(2)	・VectorからIllustrator、図面の着色、ドロップシャドウ
第31・32回 第33・34回 第35・36回 第37・38回	9. プレゼンテーションの実践	・Powerpointの基本 ・プレゼン資料(スライド)の考え方 ・設計演習課題との連動(スライド、ビジュアルデータの作成)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	インテリアデザイン	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2022年度：2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉竹 徹（自らのデザイン事務所を18年主宰し、インテリア実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	商業施設及び店舗の実地調査し、「商い」の本質をインテリアデザインの立場より見抜く目を養う。商業施設とは「安心して買い物や飲食ができる空間を創ること」を基に、専門的な知識の学習、設計基本を学び、知恵へと膨らませる。その集大成として、自身で企画した店舗を実地区画にデザイン・設計。模型を製作し、最終プレゼンテーションを行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や専門機関ショールームの見学など、実地レベルでの体験授業なども適宜取り入れる。また、スライドや実現場で行われている内容を講義形式で行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。立地調査からコンセプト・デザイン・設計を商いのカタチにまで造り上げることにより、最終では期限内に作品を完成させることを最優先として、スケジュール管理も個々行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	インテリアデザインとは 商業施設・店舗の実例をもとに、実践したプレゼンテーションの実演から学ぶ
第2回	2. 課題現地調査	商業施設及び店舗、課題地調査
第3回～	3. 課題現地調査書作成①	現地調査に基づき、グループ単位での現地調査書(プレゼン資料)を作成①
	4. 課題現地調査書作成②	現地調査に基づき、グループ単位での現地調査書(プレゼン資料)を作成②
第8回～	5. 調査書プレゼンテーション	現地調査書、プレゼンテーション(各グループ単位)、グループ別講評
第10回	6. インテリア設計概論	実地店舗においての、コンセプト作り、平面ゾーニング、平面計画等の概論を学ぶ
第11回	7. インテリア専門機関研修	インテリア関連専門機関(ショールーム)にて素材研究/体験授業研修
第12回～	8. 平面ゾーニング・計画①	店舗設計、コンセプト・平面ゾーニング・計画図作成①
	9. 平面ゾーニング・計画②	店舗設計、コンセプト・平面ゾーニング・計画図作成②
第18回～	10. 設計図書製作①	店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成①
	11. 設計図書製作②	店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成②
	12. 設計図書製作③	店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成③
第26回～	13. インテリア模型製作①	インテリア、模型製作①
	14. インテリア模型製作②	インテリア、模型製作②
第32回～	15. 最終プレゼンテーション①	プレゼンテーション、個別作品講評会①
	16. 最終プレゼンテーション②	プレゼンテーション、個別作品講評会②
第34回	17. 最終講評会	各作品全体講評会、インテリア設計のまとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	家具デザイン	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2022年度：2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉竹 徹（自らのデザイン事務所を18年主宰し、インテリア実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	日々の暮らしや仕事、交流や休息の場面を支えている家具。家具の3要素である「強(堅牢・丈夫)/用(機能・使いやすさ)/美(美しさ・快適さ)」を基軸に、課題に取り組むプロセスのなかで、発想力を磨き上げることが学びます。その集大成として、自身でデザインした家具の企画書・設計図・3D・模型を製作し、最終プレゼンテーションを行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、実物調査や専門機関の見学など、原寸レベルでの体験授業なども適宜取り入れる。また、スライドを用い、実現場で行われている内容を講義形式で行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。調査と体験からコンセプト・デザイン・設計を家具のカタチにまで造り上げ、プレゼンテーションすることにより、最終では期限内に作品を完成させることを最優先として、スケジュール管理も個々行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回～	1. ガイダンス /講義	家具デザインとは(概論) 家具の実例をもとに、「強・用・美」から学ぶ家具の基礎概論 ※基礎概論～強度・人間工学と用・美しいということ・スタイルの調和
第4回 第5回～	2. 実物(体験)調査 /プレゼンテーション	「名作家具から学ぶ」モダン家具のデザインを実体験 ※プレゼンテーション形式による、レポート作成
第11回～ 第15回	3. 課題演習Ⅰ /講義	「家具デザイン課題演習Ⅰ」 制作フロー～発想原点・テーマと造形・モックアップ制作・作図・プレゼンテーション
第16回	A インテリア専門機関研修	インテリア関連専門機関(ショールーム)にて素材研究/体験授業研修
第17回～ 第19回～ 第22回～	4. 課題演習Ⅱ 5. 家具企画案 6. 設計図書製作① 設計図書製作② 設計図書制作③	「家具デザイン課題演習Ⅱ」 ラフスケッチによる、アイデア出し、コンセプト作成 コンセプト・家具三面図・3D等、プレゼンボード作成① コンセプト・家具三面図・3D等、プレゼンボード作成② コンセプト・家具三面図・3D等、プレゼンボード作成③
第27回	7. /中間プレゼンテーション	中間プレゼンテーション、中間講評会
第28回～	8. 家具模型製作① 家具模型製作②	家具、模型製作① 家具、模型製作②
第32回～	9. 最終プレゼンテーション① 最終プレゼンテーション②	プレゼンテーション、個別作品講評会① プレゼンテーション、個別作品講評会②
第34回	10. 最終講評会	各作品全体講評会、家具デザインのまとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	パース I	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2022年度:1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	前島 和也(パース事務所を主宰する実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築やインテリアの設計プロセスにおける空間のイメージスケッチや完成予想図としてのパース(透視図)の作成技法を習得する。具体的には①1点透視図法②2点透視図法③グリッド法などの基本的な作図手順から、パステル・色鉛筆などによる着彩までを学ぶ。また、この授業内容と関連する『インテリアコーディネーター』、『商業施設士』資格取得への足掛かりとなることを目指すものである。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、参考建物の見学・スケッチなど、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	1、フリーハンドによるスケッチ	①図法による作図を行う前に、フリーハンドで簡単な立体を描かせることにより、デッサン力を養う。
第3回	2、建物スケッチ	①江戸東京たてもの園などに行き、明治・大正・昭和の建物群を見学し、その中の1つの建物をスケッチする。
第4～7回	3、1点透視図・グリッド法による作図	①1点透視図・グリッド法で簡単な立体から室内パースの作図及び着彩を行う。
第7～12回	4、2点透視図による作図	①2点透視図で簡単な立体から建築外観パースの作図及び着彩を行う。
第13～18回	5、店舗併用住宅の着彩パースを描く	①設計Ⅰと連動し、自分がデザインした商業施設の着彩パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着彩まで一通りのスキルを身につける。
第19～24回	6、ショップの着彩パースを描く	①ショップデザインⅠと連動し、自分がデザインしたショップの着彩パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着彩まで一通りのスキルを身につける。
第25～34回	7、商業施設の着彩パースを描く	①設計Ⅱ(進級制作)と連動し、自分がデザインした商業施設の着彩パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着彩まで一通りのスキルを身につける。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図 I	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2022年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石橋 弘次(建築設計事務所にて、戸建て住宅の設計監理業務、マンションリノベーションの設計、インテリアコーディネート業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	CADの概念を理解し、正しい表現としての適切な作図が行える力を習得する事を目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、Vectorworksをベースに、環境設定から面と線、幾何学図形の作図を通し、基本操作を習得。またレイヤー・クラス分けなどの管理を理解し、適切に運用していく方法を学ぶ。また、CADの操作に留まらず、図面の作図、図面の意図を理解することに重点を置き、第一段階では1/100レベルの意匠図、第二段階では各種構造の構成も踏まえた理解、1/50レベルの一部詳細を含んだ表現へと段階的に習得する。また、合わせてSketchUPの習得も行い、図面と三次元の関係性を理解する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第3回～	目標と準備 基本設定	CADの概念と実務活用、Vectorworksインストール準備 線を描く: ツール操作、クラス設定と線種、設定等 環境設定: ツール配置、作業画面登録
第5回～ 第7回～ 第11回～	作図練習 家具シンボル作成 配置兼1階平面図	幾何学図形を描く: 幾何学図形の作成、加工(切り欠き、張り合わせ)、前後関係 曲線と多角形: 円弧、ベジェ曲線、多角形、線分化 作図ベース定義: 縮尺、用紙設定、レイヤー設定 通り芯の作図: 通り芯、オフセット 壁の作図: ダブルライン多角形、切り欠き 寸法記載: 設定、位置の検討 建具の作図: 建具の種類、簡易的な窓や開口部の描画 階段: 階段の種類と描画、計算方法 建築概要: 面積の算定、記号、文字記載
第17回～	2階平面図	図面の管理: レイヤー登録画面設定 作図手順、作図実習
第21回～	立面図の作図	立面図とは: 高さの表記、屋根の種類、屋根勾配 作図方法: 図面の回転、窓の表現
第25回～	断面図の作図	断面図: 断面図とは、切断位置、切断表現 懐寸法: スラブ、屋根、基礎 階段の段数決定の基礎、表現
第29回～ 第31回～	図面着色 sketchup講座	Vectorworksを使用した図面の影付け、テクスチャー表現を学ぶ 基本操作: 、SketchUPインストール、図形の作図、カメラワーク、スタイルの管理 立体データの作図: 2Dデータからの立体モデリング方法
第35回～ 第37回～ 第41回～ 第43回～ 第45回～ 第47回～ 第51回～ 第55回～	シートレイヤー RC造の1/100図面表現 RC造の1/50図面表現 木造1/50壁の構成 展開図作図の基礎 家具図の表現 S造の1/100図面表現 S造の1/50壁の構成	シートレイヤーの仕組み、設定 RC造の基礎: ラーメン構造、基本スパン、断面構成の把握、基礎ピット、屋上の構成 RC造の応用: 仕上げ方法による壁構成の違い、LGSの構成、1/50レベルの図面表現 木造の応用: 木造の壁構成 展開図作図: 展開図の作図手順、巾木、廻り縁 家具図の基礎: 三面図の基本構成と材料、引き出しの構成 S造の基礎: ラーメン構造、基本スパン、断面構成の把握 S造の応用: 仕上げ方法による壁構成の違い
第57回 ～68回	レンダリングソフトの活用	SketchUPデータをレンダリングソフトへコンバート、素材や照明の適用 静止画のレンダリング、映像のレンダリング

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図Ⅱ	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2022年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉村 とも子(CAD利用技術者1級である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	AutoCADの基本操作と応用操作を習得し、図面作成に必要な知識を身に付ける。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、汎用CADでは世界的なシェアを誇るAutoCADの習得を特徴とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. インストール	AutoCADのインストールとラアクティベーションについて
第3回	3. AutoCADとは	CADソフトの種類、AutoCADのバージョン
第4回	4. AutoCADの作成機能	「基本的な作成コマンドの操作方を学びます」
第5回		付属CD-ROMの内容と使い方
第6回		画面構成・環境設定・機動と終了
第7回		ファイルを開く
第8回		コマンドの使い方・オブジェクトの選択
第9回		画面の拡大表示と移動
第10回		直線の作成と削除
第11回		新規図面作成・テンプレートと図面範囲
第12回		座標入力
第13回		直行モードと極トラッキング・オブジェクトスナップ、ポリラインの作成と編集
第14回	5. 練習問題①	ファイルの保存とバックアップ、長方形・ポリゴン、円・円弧・楕円
第15回	6. 練習問題②	直線コマンドを使った図形の問題を作成します
第16回	7. AutoCADの修正機能	円や曲線のコマンドを使った図形の問題を作成します
第17回		「基本的な修正コマンドの操作方を学びます」
第18回	8. 練習問題③	移動と複写、オフセット・回転、トリム・延長、尺度変更・鏡像
第19回		フィレット・面取り、配列複写
第20回		修正コマンドを活用した問題を作成します
第21回	9. AutoCADの応用機能1	「文字や寸法の設定と入力の方法を学びます」
第22回		文字スタイルの役割、文字記入・マルチテキスト・行間隔の設定
第23回		寸法記入スタイルの設定
第24回	10. 練習問題④	長さ寸法・並行寸法・直列寸法・並列寸法・直径寸法・角度寸法・クイック寸法
第25回～		図面に文字と寸法を記入する問題を作成します
第26回	11. AutoCADの応用機能2	「製図における投影法の種類について学びます」
第27回		投影図の作成
第28回	12. AutoCADの応用機能3	「図面作成に重要な、図形を効率よく作成、修正する有効な機能とその活用方法を学びます」
第29回		コマンドエイリアスとカスタマイズ、オブジェクトプロパティ管理・オブジェクトスナップトラッキング、印刷方法
第30回	13. AutoCADの応用機能4	「画層/レイヤーを使った図面の作成について学びます」
第31回		画層/レイヤー・線の種類についての設定と活用方法、グラデーションの作成
第32回	14. 課題図の作成	問題図面データ(配布)を使用して、作成、修正、印刷まで行う
第33回	15. AutoCADの図面演習	「建築図面を作成する手順を学びます」
第34回		RC造マンションの平面図を作成
		各スタイルの設定とテンプレートの活用
		マルチラインの設定と作成
		基点設定・2点間中点・分解・グリッ編集
		ブロックの作成と挿入・属性の作成と編集
		尺度の考え方と印刷・モデル空間とレイアウト空間

※・1単位時間45分(90分授業)・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図Ⅱ	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2022年度:2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	木元 洋佑（建築設計事務所で商業施設・学校施設・伝統的建築物活用のためのリノベーションの設計監理業務に従事している経験を活かした授業を行う。）				
授業の到達目標	Archi CAD技能の取得(平面図、立面図、断面図、3Dモデルの作成、レンダリング)。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、建設業界におけるBIMの活用が急激に進んでいる中で、今後必要とされる技術を取得することを目的とする。BIMソフトを利用した、プレゼンテーションや、他ソフトとの連携についての技術も取得する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回	1. ガイダンス 2. インストール	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明 アプリケーションのインストール。無償教育版の申し込みを行う。
第3回 第4回～ 第10回	3. BIMの基本 アーキキャドに慣れる	簡易建物(オフィスビル)の作成 簡易的な建物をモデリングすることによりアーキキャドの基本的な操作を学ぶ。
第11回 第12回	4. 操作の基本1 環境の設定	基本的なアーキキャドの操作方法を実戦。 操作画面の環境設定を行う。
第13回～ 第18回	5. 操作の基本2 モデリング	ファンズワース邸を参考にモデリングを行う。
第19回～ 第22回	6. 操作の基本3 レンダリング 図面 レイアウト	モデリングしたファンズワース邸を利用して、レンダリング、図面化、レイアウトを行う。 レイアウトした図面を出力する。
第23回～ 第26回	7. CADの応用 設計課題の敷地を作る	プロジェクトを始める前の準備を学ぶ。 計画敷地を与えられたのちにスタディをするまでの準備段階をアーキキャドで行うことにより卒業制作でアーキキャドを活用できるよう学習する。
第27回～ 第32回	8. CADの応用2 ゾーンツール	ゾーンツールを利用して保育所の設計をする。 ゾーンツールを使って設計課題の敷地でスタディを行う。
第33回～ 第34回	9. BIMデータを利用した プレゼンテーションへの活用	BIMデータを利用した、効率的なプレゼンテーション方法を学ぶ。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築・インテリア課題研究	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(140時間)	開講・履修期	2022年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	国府田 大輔(建築設計事務所、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、および施設などの現地調査・分析などを行う。建築インテリアに関する自分の見聞を広げることで、優れた作品を生み出すための知識と感性を磨き、課題制作に生かすことを目的とする。				
授業の概要及び特徴	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、および施設などの現地調査など、校外授業を主とする。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～6回	① 施設の調査・分析	施設を実際に見て調査し、設計するための参考にする。
第7～10回	対象作品のリストアップ	専門雑誌や作品集等の資料から、各自が興味を持った作品をリストアップし、調査する対象作品を決定する。
第11～16回	対象作品の現地調査	対象作品を実際に現地で調査し、必要に応じて、写真撮影やスケッチをして記録する。
第17～20回	調査結果のまとめ	現地調査した結果をレポートにまとめる。
第21～24回	調査結果の発表	進級制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第25～30回	② 進級制作のための調査	進級制作のテーマ設定の裏付けとなる調査を行う。
第31～35回	必要な資料の収集	進級制作を行うために必要な資料の収集を行う。
第36～45回	参考作品・展覧会の見学	進級制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第46～50回	調査結果のまとめ	調査した結果を企画資料としてレポートにまとめる。
第51～70回	制作作業	企画資料を踏まえた制作作業を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築・インテリア課題研究	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(140時間)	開講・履修期	2022年度:2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	安田 泰三(建築設計事務所で、主に商業・事務所・集合住宅等の大規模建築の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、および施設などの現地調査・分析などを行う。建築インテリアに関する自分の見聞を広げることで、優れた作品を生み出すための知識と感性を磨き、課題制作に生かすことを目的とする。				
授業の概要及び特徴	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、および施設などの現地調査など、校外授業を主とする。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～6回	① 施設の調査・分析	施設を実際に見て調査し、設計するための参考にする。
第7～10回	対象作品のリストアップ	専門雑誌や作品集等の資料から、各自が興味を持った作品をリストアップし、調査する対象作品を決定する。
第11～16回	対象作品の現地調査	対象作品を実際に現地で調査し、必要に応じて、写真撮影やスケッチをして記録する。
第17～20回	調査結果のまとめ	現地調査した結果をレポートにまとめる。
第21～24回	調査結果の発表	卒業制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第25～30回	② 卒業制作のための調査	卒業制作のテーマ設定の裏付けとなる調査を行う。
第31～35回	必要な資料の収集	卒業制作を行うために必要な資料の収集を行う。
第36～45回	参考作品・展覧会の見学	卒業制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第46～50回	調査結果のまとめ	調査した結果を企画資料としてレポートにまとめる。
第51～70回	制作作業	企画資料を踏まえた制作作業を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	デザイン研究	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2022年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	国府田 大輔(建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築インテリアに関するコンペティション参加や、実技科目の事前及びまとめなどを行う。建築インテリアに関して十分に考え、作業する時間をつくることで、優れた作品を生み出すことを目的とする。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・スケジュール・評価方法などを説明
第2～6回	① 空間練習の内容確認	教員指示による課題内容を確認する。
第7～10回	参考作品のリストアップ	過去の事例等から、参考例をリストアップし研究する。
第11～16回	エスキース	収集・研究した資料をもとにエスキースを行う。
第17～20回	プレゼンテーション	模型、プレゼンテーションボードを作成する。
第21～24回	発表	プレゼンテーションボードをもとにクラス発表を行う。
第25～30回	② コンペティション要項の確認	コンペティション要項の内容を確認する。
第31～35回	参考作品のリストアップ	過去のコンペティション等から、参考作品をリストアップし研究する。
第36～45回	エスキース	収集・研究した資料をもとにエスキースを行う。
第46～50回	プレゼンテーション	図面・パース・模型等を作成し、プレゼンテーションボードを作成する。
第51～68回	発表	プレゼンテーションボードをもとにクラス発表を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	デザイン研究	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2022年度:2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	安田 泰三(建築設計事務所で、主に商業・事務所・集合住宅等の大規模建築の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築インテリアに関するコンペティション参加や、実技科目の事前及びまとめなどを行う。建築インテリアに関して十分に考え、作業する時間をつくることで、優れた作品を生み出すことを目的とする。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・スケジュール・評価方法などを説明
第2～6回	① 空間練習の内容確認	教員指示による課題内容を確認する。
第7～10回	参考作品のリストアップ	過去の事例等から、参考例をリストアップし研究する。
第11～16回	エスキース	収集・研究した資料をもとにエスキースを行う。
第17～20回	プレゼンテーション	模型、プレゼンテーションボードを作成する。
第21～24回	発表	プレゼンテーションボードをもとにクラス発表を行う。
第25～30回	② コンペティション要項の確認	コンペティション要項の内容を確認する。
第31～35回	参考作品のリストアップ	過去のコンペティション等から、参考作品をリストアップし研究する。
第36～45回	エスキース	収集・研究した資料をもとにエスキースを行う。
第46～50回	プレゼンテーション	図面・パース・模型等を作成し、プレゼンテーションボードを作成する。
第51～68回	発表	プレゼンテーションボードをもとにクラス発表を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	卒業制作	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	3単位（110時間）	開講・履修期	2022年度：2年（後期）	講義区分	専門実技
教員紹介	栗山雅之（実務経験を持つ一級建築士であり、インテリアデザイン事務所、商業系設計施工会社企画設計部で、主にホテル・商業施設・店舗等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「卒業制作」では、集大成として各学生が自由なテーマを設定し、リサーチからプレゼンテーションまでの実務に即したプロジェクトフローに基づき計画を進める。テーマに関しての情報収集・処理能力や具体化への企画構想力、プログラムにたいしての的確な判断力、プランニング・デザインにおける豊かな想像力、造形力、ビジュアライゼーション・プレゼンテーションにおける表現力等をやしなうことを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、作品は全てグループワークによるものであり、テーマ・コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、在学中に学んだ多くの他の授業の集大成である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. テーマ設定	①テーマを設定する。
第2回～ 第3回	2. 調査・分析	①テーマに関する資料収集 計画敷地・役所調査 類似施設現地調査 テーマ変更・調整・再調査 ②「テーマレポート」について発表する。 ③計画敷地模型を作成する。
第4回～ 第10回	3. 計画敷地の条件分析・ 方向性の検討	①コンセプト・キーワードを設定する。 施設ボリューム・動線・ゾーニングの検討をする。 施設構成（配置・平面・断面・各機能）の検討をする。 ②企画書を作成し、発表する。 ③ボリューム模型作成する。
第11回～ 第18回	4. エスキース	①配置計画（方位・隣地・接道・外構・建築ボリュームの検討） 平面計画（ゾーニング・動線・採光・通風・プライバシー・床面積の検討） 立面計画（外装・ファサードデザイン・サインデザイン等の検討） 断面計画（階高・階段・EV・吹き抜け・ファサードデザイン・斜線制限等の検討） インテリア計画（内装・ファニチュアプランの検討） 以上のエスキースを行う。 エスキース模型作成する。
第19回～ 第35回	5. 図面・模型作成	①設計主旨・建築概要 配置図・各階平面図 立面図・断面図 内観パース・外観パース 以上の図面を作成する。 プレゼンテーション模型作成する。
第36回	6. 最終提出	①最終成果物（図面・模型一式）提出。
第37回	7. クラス発表会	①クラス発表。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	ビジネス実務	開講学科	建築インテリアデザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2022年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉村 とも子(CAD利用技術者1級である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	現代のビジネス社会で、必須となる、コンピュータ基礎知識とソフトウェアOfficeを習得する。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、Wordで文書作成、Excelで表計算式、グラフなど、PowerPointでは、プレゼンテーション資料を作成出来る等、実務へ活かせるスキルを身につける。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものである。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第2回～	1. ガイダンス 2. コンピュータ知識編	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明 ハードウェアの基礎・ソフトウェアの基礎 WindowsとMAC「OS」の種類と歴史、Officeについて(種類) パソコンの基本操作、Windowsの画面構成 主なキーボードの名前と活用方法、フォルダ、ファイルの活用方法
第3回～	3. アプリケーション編 [Word] 基本操作	「一般的なビジネス文書を作成しながらWordの基本操作を学びます」 Wordの特徴・画面構成・日本語入力 ファンクションキー・箇条書き・日付、記号の入力 ファイルのバージョンと保存
第4回～	4. アプリケーション編 [Word] 編集操作	「一般的なビジネス文書をWordで効率よく編集する方法をを学びます」 コピー、貼り付け、フォントの設定、文字の配置、文字のデザイン 行間、インデントの設定、罫線
第5回～ 第6回～ 第7回～	5. アプリケーション編 [Word] 応用操作 6. アプリケーション編 [Excel] 基本操作	「画像入りの文書をWordで効率よく作成、編集する方法をを学びます」 図形の挿入、編集、写真の挿入、編集、文書の飾り罫線、文書の印刷 「一般的な表を作成しながらExcelの基本操作を学びます」 Excelの特徴・画面構成・ワークシート、セルへ文字、日付の入力 コピー、貼り付け、データの削除、挿入、計算式の作成とコピー セル参照と表示形式、ブックの保存
第8回～	7. アプリケーション編 [Excel] 編集操作	「一般的な表をExcelで効率よく編集する方法をを学びます」 文字サイズ、配置、列幅の変更 罫線・塗りつぶし、フォントの色 印刷結果の確認、ワークシートの印刷
第9回～ 第10回～	8. アプリケーション編 [Excel] 応用操作	「Excelでグラフを作成、編集する方法をを学びます」 グラフ機能について、簡易的グラフの作成、グラフの位置、大きさの変更 グラフの種類とデザイン
第11回～	9. 総合演習(まとめ)と試験対策	スキル確認の演習問題と試験対策を行います ■12月下旬、後期期末試験実施
第12回～ 第13回～ 第14回～	10. 期末試験結果 11. アプリケーション編 [PowerPoint] 基本と活用操作	期末試験の採点結果と問題の解答&解説 「PowerPointでプレゼンテーション資料を作成し、発表の方法を学びます」 PowerPointの特徴・画面構成、スライドの作成、挿入、テーマの変更 スライドへ表や画像の挿入、アニメーションと画面切り換え、プレゼンテーションの実行
第15回～ 第16回～ 第17回～	12. パソコン実務編 [Word&Excel&PowerPoint] 各アプリケーションの連携 最終まとめ	「WordとExcelそしてPowerPointとの連携と活用方法を学びます」 OLE機能とその操作方法

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週